

平成19年度のアユ資源調査結果概要

酒井明久・澤田宣雄・田中秀具・鈴木隆夫・臼杵崇広・金辻宏明・上垣雅史

◆背景・目的

年間を通じてアユの資源水準等を評価するため、魚群分布調査、産卵状況調査、ヒウオ生息状況調査および成育状況調査を実施した。

◆成果の内容・特徴

- ・平成19年1～8月の魚群数は、2～3月を除いて平年値を上回った(図1)。
- ・平成19年の産卵数は、177.3億粒で平年値113.1億粒の1.6倍であった(図2)。
- ・平成19年のヒウオ生息密度は、10～12月に実施した3回の調査ではともに平年値を大きく下回った(図3)。
- ・平成19年2月以降の漁獲魚の平均体長は、4～5月にはエリ、ヤナともに昭和50年以降の最大値を記録した(図4)。

◆成果の活用・留意点

調査の継続により引き続き資源水準の評価を行うとともに、調査データの蓄積が必要である。

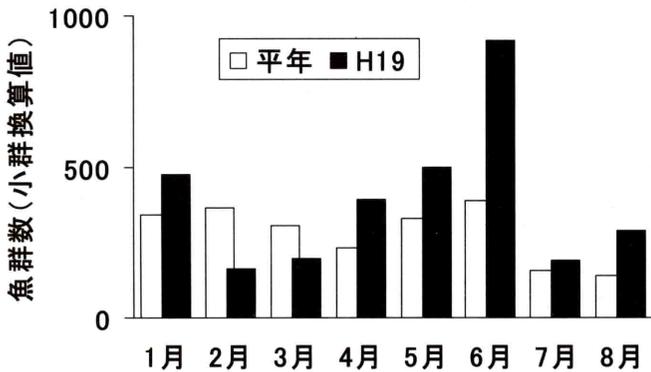


図1. 平成19年の魚群数の推移。
平年値は過去10年間の最大・最小を除く8年間の平均値。

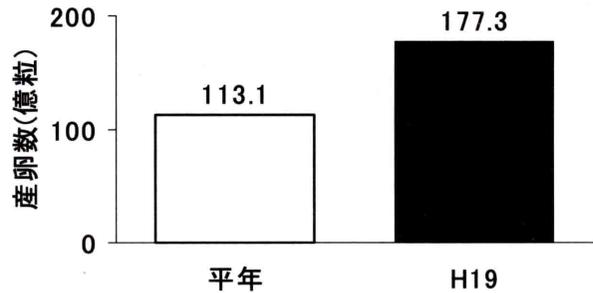


図2. 平成19年の天然河川における産卵数。平年値は過去10年間の最大・最小を除く8年間の平均値。

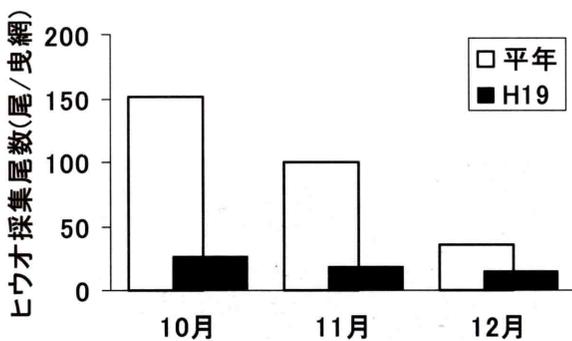


図3. 平成19年のヒウオ生息密度。
平年値は過去10年間の最大・最小を除く8年間の平均値。

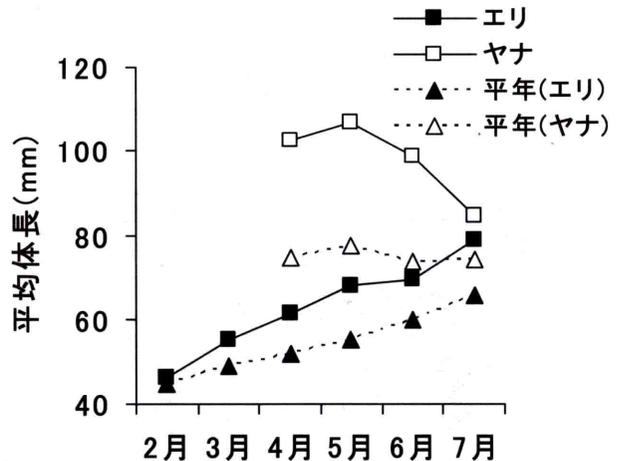


図4. 平成19年のエリ・ヤナ漁獲魚の平均体長。平年値は昭和50年から平成18年の平均値。